

文学の舞台になった 芦屋の風景

問い合わせ 広報国際交流課 ☎38-2006

芦屋川

蒼白い月／徳田 秋声

「そこは大阪と神戸とのあひだにある美しい海岸の別荘地で、白砂青松と言った明るい新開の別荘地であった。(中略)街路は整頓され、洋風の建築は起され、郊外は四方に発展して、致るところの山裾と海辺に、瀟洒な別荘や住宅が新緑の木立のなかに見出された。(中略)私たちは河原ぞひの道路を歩いて、河原も道路も蒼白い月影を浴びて、真白に輝いていた。対岸の黒い松原蔭に、灯影がちらほら見えた。道路の傍には松の生茂った崖が際限もなく続いていた。そしてその裾に深い叢があった。月見草がさいていた。」

〔講談社「日本現代文学全集28」〕



細雪／谷崎 潤一郎

「だん／＼聞いてみると、蘆屋川や高座川の上流の方で山崩れがあつたらしく、阪急線路の北側の橋のところを押し流されて来た家や、土砂や、岩石や、樹木が後から／＼と山のやうに積み重なつてしまつたので、流れが其處で堰き止められて、川の兩岸に氾濫したために、堤防の下の道路は濁流が渦を巻いてゐて、場所に倣つては一丈ぐらゐの深さに達し、二階から救ひを求めてゐる家も沢山あると云ふ。」

〔「細雪」中巻、谷崎潤一郎全集〕
中央公論新社



●谷崎潤一郎 (1886～1965)

大正12年(1923)9月1日の関東大震災を逃れて、妻千代と幼い娘鮎子を連れ関西に移つてきたのは、大正12年9月、37歳のときだった。関西に移り住んだ谷崎は、芦屋や西宮などの風物を愛し、また引越し好きということもあり、芦屋・西宮・神戸の岡本など転々とする。

昭和9年から11年の3年間、現在は富田碎花旧居になつてゐる宮川町の家で松子夫人と新居を構えた。ここで「猫と庄造と二人のをんな」源氏物語現代語訳などを執筆し、後に芦屋を舞台にした名作「細雪」を著すことになる。

●徳田秋声(1871～1943)

大正9年(1920)5月12日、大阪時事新報社の懸賞小説授賞式に講演のため下阪。帰途、芦屋に住む長兄の養嫡子夫妻を訪れた。小説「蒼白い月」は、その際に著された作品。その時の秋声は、自分自身のこれからの人生と、徳田家の将来を思いながら、蒼白い月のかかる芦屋川の河口をそぞろ歩く。

小説家、金沢生まれ。本名末雄。尾崎紅葉門下から出発し、自然主義文学の代表作家となつた。代表作「新世帯」「徴」「あらくれ」「縮図」など。

芦屋公園

芦屋にて／生田 春月

「茶芦屋から浜芦屋まで、阪神電車の踏切を越して、村役場の前をすつと海岸まで導いている真白な広い道と、芦屋川の川ぞひみちとの間が、細長い遊園地になつていて、白い砂地の松林の中には、休憩所があつたり、テニスコートがあつたりする。夏になると、小学校では、机を持出して、ここで授業をするのだといふ。いちばん自由な林間学校である。芦屋の児童は幸福だと思ふ。」〔本郷出版社「生田春月全集8」〕



●生田春月(1892～1930)

詩人。ツルゲーネフ、ゲーテ、ハイネなど翻訳が多く、特にハイネの研究に優れる。

芦屋浜・芦屋の海

芦屋より／丹羽 安喜子

五位鷺の飛ぶ武庫の芦屋よ
春のやよひの打出の浜に
山べより芦屋に及ぶともしびを

●丹羽安喜子 (1892～1960)

歌人。与謝野鉄幹寛、晶子夫妻に師事し、新詩社社友となる。丹羽俊彦夫人であり、松浜町に住んでいた。「芦屋より」を出版し、雑誌「明星」の編集委員などもつとめた。

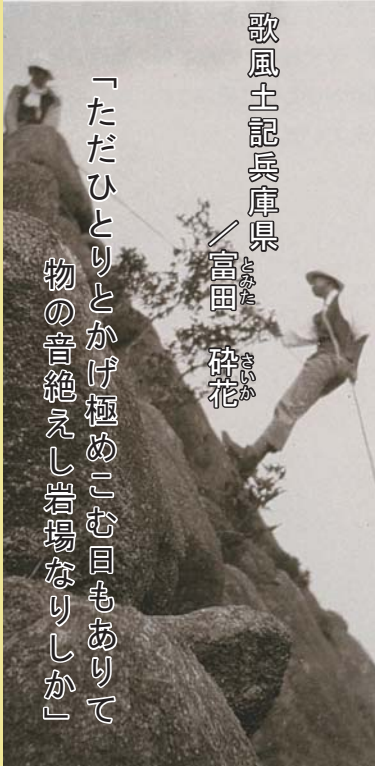


城山・ロックガーデン

歌風土記兵庫県

富田 碎花

「ただひとりとかげ極めこむ日もありて
物の音絶えし岩場なりしか」



●富田碎花(1890～1984)

盛岡市に生まれた碎花(本名・戒治郎)は、12歳で上京、18歳の頃、与謝野鉄幹・晶子の「新詩社」に入り、同郷の石川啄木と歌会に出席。「明星」や若山牧水の歌誌「創作」などに短歌を発表。大正元年、第1歌集「悲しき愛」を出版。翌大正2年に病を得、知人を頼って病氣療養のために芦屋へ。

大正9年、田島マチと結婚。大正10年から昭和59年に亡くなるまでの60余年、芦屋に住み続けた。芦屋定住後、大正昭和にかけて多くの著作を残す。また宮川・岩園小学校や精道中学校ほか多くの校歌や社歌等を作詞し、広く兵庫の風土と人を愛し、「兵庫文化の父」と呼ばれた。

“国民年金”から20歳を迎えるあなたへ

日本に住んでいる20歳から60歳までの人は、すべて国民年金に加入することになっています。
国民年金は、老後の生活を保障するだけでなく、病気や事故で障がいが残ったときや一家の大黒柱を失ったとき、あなたや家族が基礎年金を受けられるよう保障されています。
20歳の誕生月の前月に日本年金機構から案内状が届きます。学生のかたの確認等も含まれていますので、同封の「加入届」を必ずご提出ください。
後日「年金手帳」が送られてきますが、保険料納付の確認や将来年金を受け取る時など、この手帳は生涯にわたって使用しますので、大切に保管してください。

問い合わせ 市民課管理係(年金担当) ☎38-2036

平成28年 芦屋市成人式のご案内

- 日時 1月11日(月・祝)
午後0時15分<受け付け>
午後1時～3時30分<式典>
 - 会場 ルナ・ホール
 - 対象 平成7年4月2日～平成8年4月1日に生まれた新成人
- ※案内状がなくてもご参加いただけます。



問い合わせ 青少年育成課 ☎22-0358